



認定看護師だより



災害時の対応！～いざという時もその人らしさを大切に～

災害時に認知症のある方が抱えるリスク

認知症のある方は、災害時にさまざまな不安や混乱が生じ、普段できていたことが難しくなることがあります。

- ・ 見当識障害により自分の場所や時間が分からなくなる
- ・ 環境の変化で強い不安や混乱が生じる
- ・ 避難場所で落ち着けず、パニックになる
- ・ トイレや食事、水分がうまくとれない
- ・ 家族と離れてしまい、不安が増す

認知症看護認定看護師 篁 薫



地震が起きた時の看護のポイント

1.まずは安全を確保する

- ・ 落ち着いた声でゆっくりと声かけをしましょう
- ・ 急がせず、その人のペースで行動をサポートしましょう

2.混乱を和らげる環境づくり

- ・ いつもの物（写真・タオル・メガネなど）をそばに置きましょう
- ・ 明るさ・音・人の多さなど、刺激を減らす工夫をしましょう

3.安心できる関わり方

- ・ 「大丈夫ですよ」「一緒に行きましょう」など、やさしい言葉をかける
- ・ 無理に動かさず、安心できる環境で過ごせるようにしましょう

4.トイレ・食事・水分を確保

- ・ 避難先でもトイレの場所や食事・水分の摂取をサポートしましょう
- ・ 脱水や体調の悪化を防ぎます

5.家族や多職種と連携する

- ・ 家族と情報を共有し、本人の安心につなげましょう
- ・ 医療・介護・福祉などと連携し、継続した支援を行いましょう

災害時こそ
『その人らしさ』を
大切に



2週間以上続く咳や痰、微熱、もしかしら結核かも？

感染管理認定看護師 上土井 麻紀

毎年9月24日から30日までを「結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間」として、普及啓発が行われています。

国内において2025年の新規登録者数は9,899人、死亡者数（概数）は1,474人。新規登録結核患者は高齢者に多く、およそ6割が60歳以上となっています。

結核は、結核患者の咳によって飛散、空気中に浮遊した結核菌を含む飛沫核を吸い込むことで感染が起こります。結核菌が体の中で活動を始め、菌が増殖して様々な症状が現れることを発病と言います。

また、潜在性結核感染症（LTBI）とは、結核菌に感染しているものの、症状がなく、他者への感染源にもならない状態を言います。症状がないため放置されがちですが、免疫力が低下すると活動性結核に進展するリスクがあります。

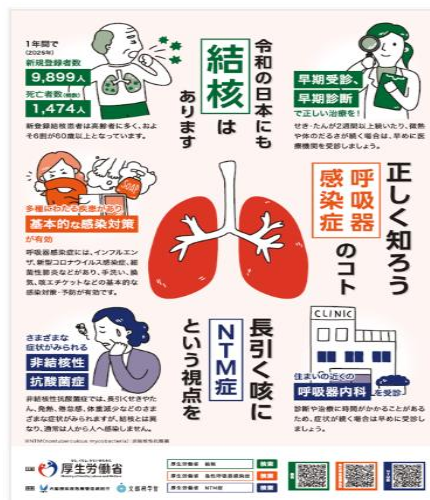
【症状】 咳嗽、喀痰、発熱、喀血、血痰、胸痛、寝汗、倦怠感、食欲不振、体重減少など

【危険因子】 糖尿病、慢性腎不全（人工透析）、悪性腫瘍、免疫不全、HIV感染、喫煙など



2週間以上、咳が続くときは診察を受けましょう。

公益財団法人結核予防会のホームページでは、結核Q&Aが分かりやすく掲載されていますので、ご活用下さい。



厚生労働省
令和8年度ポスターです。

令和7年度分ですが、日本語の他にも、以下のポスターもあります。

- ・ 英語
- ・ フィリピン語
- ・ ベトナム語
- ・ ミャンマー語
- ・ インドネシア語
- ・ ネパール語
- ・ 中国語